

2 デジタルプラットフォーム事業部の取り組み③

社会課題の解決に資する 公共プラットフォームを私たちの手で！

デジタルプラットフォーム事業部が手掛けている数々のシステムは、社会を支えるインフラである。それゆえ、求められることは多岐に渡り要求水準も高い。社員たちは、どのような想いで日々の業務に携わり、未来の社会を創っていこうと考えているのか。若きソーシャル・デザイナーたちの声をお届けする。

社会課題解決につながっている という手ごたえ

——やりがいを感じるのとはどのような
ところでしょうか

伊達 私は、貿易の際に必要な原産地証明の書類をデータ化して電子交換をするための仕組みづくりに携わっています。紙で行っていたことを電子交換とすることで、正確性が担保され、人手不足の解消にもつながります。社会課題解決のための仕組みづくりに携わることができていることにやりがいを感じます。

蓬田 私はマイナポータルと国税のシステムを橋渡しする部分の開発を担当しています。公共系のシステムとしては珍しく、いち国民として自分がシステムを使う側にも立ちますし、身近な人から「便利だった」と言ってもらえるなど、自分が携わったシステムが世の中を便利にしていると実感することができています。

東 私が担当している「達人シリーズ」は、主に税理士事務所および企業にご利用いただく税務申告書作成ソフトです。販売代理店や連携パートナーなど、幅広い方々と一緒に仕事ができることや、お客様から効率



株式会社 NTT データ
公共統括本部 第三公共事業本部 デジタルプラットフォーム事業部
(左上から) 主任 渡辺 菜央美 氏、主任 荻原 由輝 氏、主任 伊達 瞳 氏
課長代理 東 祐香 氏、主任 赤井 達哉 氏、課長代理 蓬田 裕菜 氏

化が実現できたなどの感謝の声を聞くと、やっていて良かったなと感じることができます。

荻原 私は、営業から在留外国人の受入に関わるシステムの新規案件の開発に異動になりました。お客様の要望を伺って、提案をしていくという上流部分から、開発の詳細な処理やデータ分析基盤といったシステムの根幹部分まで幅広く深く関わることができており、新しい技術を学ぶ機会にも恵まれています。

風通しのよい組織で 柔軟な働き方が可能

——営業から開発への異動など柔軟な働き方ができますね

赤井 私も3年間営業を経験し、希望を出して開発に移りました。営業と開発の両方を経験できているので、それを活かして両方の目線から新規ビジネスを創出し、実際に作っていくというところまで一貫通で出来るような人材になりたいと思っています。

荻原 職種が異なるような異動に関しても要望を聞いてもらえて、働き方の柔軟性は高いと感じます。

蓬田 私は子供がいるので、テレワークを活用して場所にとらわれない働き方ができるというのが、とてもありがたいです。

伊達 入社するまでは、結構硬い会社というイメージを持っていたので

すが…上司との風通しもよく、年功序列もあまり感じないですね。

東 私も、風通しの良さは感じています。また、失敗を恐れずに挑戦するといった空気感があって、積極的に色々な仕事にチャレンジができるところもあります。

渡辺 私は、中央官庁の顧客営業を担当していますが、あわせて国庫納付のキャッシュレス化を実現するための基盤の立上げとその販促という、ソリューション営業も行っています。若手であるにも関わらず、企画段階から参画させてもらっており、とても良い経験ができ、成長につながっているという実感を得ています。

欠かせないのはステークホルダーマネジメントと確実性

—公共系システムゆえの苦労などはあるのでしょうか？

赤井 私は、官公庁職員が少額の物品を購入する際に利用できるマーケットプレイスの導入に向けたプロジェクトに携わっています。国全体に影響が及ぶ大きなプロジェクトであり、民間のECサイト運営企業のトップレベルの方々とも関わるなどやりがいは感じますが、一方で関係者が多いので、それぞれへの対応や関係者間の調整の大変さも日々感じています。

伊達 貿易システムの場合、輸入、輸出、外交交渉とそれぞれ管轄の官庁が異なり、やはり関係者は多いです。また、相手国から、確認事項に対するレスポンスが遅かったり、想定外の回答が返ってきたりと、日本国内での当たり前だと思っているやり方が通用しないケースが多々発生することに難しさを感じますが、システム

開発へ影響が出ないよう関係者とのコミュニケーションを密に取ることを意識しています。

渡辺 お客様対応ももちろんですが、公共システムゆえに、社内における商品企画のハードルが非常に高いということも感じます。どんな悲観的なシナリオでも成功が見込めるものでないと通らないという感じで…それでも、最近はどんどん商品化にチャレンジしていこうという雰囲気は強くなってきています。

蓬田 でも、社内で技術的な支援部隊が整っているのも、そのサポートを得られるというのは、非常に心強いですよ。

社会課題を解決し、明るい未来を実現していきたい

—公共システムの未来像や自身の想いをお聞かせください

東 業務周りでは、税理士事務所が「達人シリーズ」をさらに便利に使用して、本来行うべき顧問先企業の経営相談やコンサルティングといったところにより力を入れていただけるようにというところです。あと、NTTデータのソリューションビジネスはあまり他にないので、個人的には全社的なソリューションビジネスの発展に寄与していけるようになりたいと思っています。

伊達 貿易は世界中の国々で行っているのも、ビジネスチャンスは無限にあると考えています。また、他国のベンダの方々に関わっていると、品質に対する考え方やシステムの作り方が、日本とは非常に異なることも実感します。自分自身で吸収しつつ、国内でのノウハウ蓄積につなげていければと思います。

荻原 外国人労働者の数が増加傾向にある中で、それを管轄する行政では全く人手が足りていません。これまで人間の判断が必須だったことも、AIなどの技術進化により自動化が可能になっていくと思うので、入国外国人、受入機関双方に資するシステムを構築して、人手不足や少子高齢化といった社会課題の解決につなげていきたいですね。

赤井 営業に居たときに、国と地方自治体の電子化の進み具合に時間差があることを非常に感じていました。電子化が地方自治体にまでいきわたらないと、本当の意味で世の中は変わっていかないと思うので…幸いNTTデータは国のシステムにおける実績がありますので、それを地方自治体に広げていくことができたらなと考えています。

渡辺 だいぶ先の話になるとは思うのですが、国のお金の使い方について、国民の声をリアルタイムに吸い上げて、より効率的に使っていくための仕組みを作ればと思います。今はまだ、使ったお金を分析し検証して、という取り組みが本格的にはできていないので…もちろん、意見の吸い上げ方やどこまで対応するか等、色々な課題はあると思いますが。

蓬田 国税申告の自動化が進めば、年1回の申告が毎月になり、税金の徴収も月次でというようになるかもしれません。そうなれば、国のお金の流れもより柔軟になって、使い方も変えていけるかもしれませんね。あと、私は子供が大きくなった時に明るい未来であってほしいと強く思っているので、様々な社会課題の解決につながるシステムを作っていきたいと思っています。